活用のある自立語 (2)

動詞の活用の種類

動詞の活用の仕方は５種類に分けられる。

①**五段活用**……活用語尾(ごび)が五段（ア・イ・ウ・エ・オ）にわたって変化する。
②**上一段活用**…活用語尾がイ段を中心に変化する。
③**下一段活用**…活用語尾がエ段を中心に変化する。
④**カ行変格活用**…「来る」のみの特殊(とくしゅ)な活用。
⑤**サ行変格活用**…「する」や「～する」の形の複合語の特殊な活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
続き方			―ない ―う（よう）	―ます ―た（だ） ―て（で）	―。 言い切る。	―とき ―こと ―ので	―ば	―。 命令して言い切る。
五段	話す	はな	さ そ	し	す	す	せ	せ
上一段	起きる	お	き	き	きる	きる	きれ	きろ きよ
下一段	食べる	た	べ	べ	べる	べる	べれ	べろ べよ
カ変	来る	○	こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ変	する	○	し せ さ	し	する	する	すれ	しろ せよ

※カ変・サ変や、上一段の「着る」、下一段の「寝(ね)る」などの動詞は、語幹と活用語尾を区別できない。

音便

発音しやすいように音が変化することを**音便**(おんびん)という。五段活用の動詞は、連用形で音便が現れることがある。

・**イ音便**
（例） 書く＋た → 書きた → 書いた
・**撥(はつ)音便**
（例） 読む＋た → 読みた → 読んだ
・**促(そく)音便**
（例） 走る＋た → 走りた → 走った

基本形	語幹	連用形（―ます ―た（だ） ―て（で））
書く	か	き い
読む	よ	み ん
走る	はし	り つ

動詞の活用の種類の見分け方

五段・上一段・下一段は、助動詞「ない」を付けて見分けるとよい。
（例） 話す　＋ない → 話さない（a） 五段活用は「ア段」に変化
起きる＋ない → 起きない（i） 上一段活用は「イ段」に変化
食べる＋ない → 食べない（e） 下一段活用は「エ段」に変化

確認テスト

(1) 動詞「見る」を、①～④の続く言葉に合わせてそれぞれ形を変え、ひらがなで答えなさい。

① [　　] ない　② [　　] よう
③ [　　] ます　④ [　　] ば

(2) 動詞「来る」を、①～③の続く言葉に合わせてそれぞれ形を変え、ひらがなで答えなさい。

① [　　] ない　② [　　] ます
③ [　　] ば

(3) 動詞「する（サ行変格活用）」を、①～③の続く言葉に合わせてそれぞれ形を変え、ひらがなで答えなさい。

① [　　] ない　② [　　] ます
③ [　　] ば

(4) 次の①～⑤の動詞の活用の種類を、それぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

① 開ける [　　]　② 閉じる [　　]
③ 来る [　　]　④ 勉強する [　　]
⑤ 泳ぐ [　　]

ア 五段活用　**イ** 上一段活用　**ウ** 下一段活用
エ カ行変格活用　**オ** サ行変格活用

(5) 次の①～③の動詞の連用形でおこる音便を、それぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。

① 遊ぶ [　　]　② 歩く [　　]　③ 言う [　　]

ア イ音便　**イ** 撥音便　**ウ** 促音便